

緑化だより

No.125 平成29年3月号



コダマゴケ

3月27日(月)は開園します

- 季節の花(ヤブツバキ)
- 野鳥の世界(スズメ)
- 昆虫の話(春を待つ綿あめ)
- 研修会のご案内
- 展示会
- お知らせ・ご案内

うらま 研学の森

広島県緑化センター・広島県立広島緑化植物公園

〒732-0036 広島市東区福田町 10166-2

TEL 082-899-2811 FAX 082-899-2843

URL <http://ryokka-c.jp> E-mail hiroshima@ryokka-c.jp



季節の花

ヤブツバキ

「奥山の 八つ峰(を)の椿 つばらかに 今日は暮らさね ますらをのとも」

大伴家持 万葉集 卷十九:4152

(奥山の峰々に咲く椿のように 心行くまで今日は楽しい一日を過ごしてください。
立派な男たちよ。)

この歌は、大伴家持が現在の富山県に、越中守として在任中の天平勝宝 2 年(西暦 750 年)3 月 3 日、家持の館で宴会をした時に詠まれた歌です。家持が家来の労をねぎらっている姿と、春を告げるツバキの組み合わせが生き生きとしていますね。

この日は五節供のひとつで、上巳(じょうし)の日といわれ、古代中国では水辺で宴会をしました。けがれを払うために人形(ひとがた)を川に流し、これが日本では流し雛となり、やがて雛祭りへと発展しました。

野生のヤブツバキはツバキ科の常緑樹で、日本列島の照葉樹林帯を代表する樹木です。北限は青森県でサルの北限とほぼ一致しています。日本海側の多雪地帯では、変種のユキツバキが分布していて、家持の歌はユキツバキかもしれません。花びらはサザンカのように 1 枚ずつ散らないで、一花ごと落花します。

和名「つばき」は、厚葉木(あつばき)の意味だという貝原益軒の説と、艶葉木(つやばき)に由来するという新井白石の説があります。室町時代以降、野生のヤブツバキやユキツバキから園芸品種が沢山作られており、一輪の椿には侘び、寂びの趣が感じられる茶花として定着しました。種子からは椿油が採れ、酸化しにくいので髪油や金属の錆止めに用いられます。また、椿の枝葉を燃やした灰はアルミニウムを多く含み、媒染剤として紫色を染めるのには必需品です。このように、椿は花を觀賞するだけではなく有用な植物です。

まだ寒さの残る早春の山に入ると、一段と目をひく赤い大きい花。12 月頃から 5 月頃まで咲いて、春の到来を告げてくれます。(上村)



ヤブツバキ



ヤブツバキの種子

野鳥の世界

スズメ

スズメ、ツバメ、メジロ、ホオジロ、ヒバリなどは、古くから人間と生活圏を共有してきた、なじみの深い小鳥です。

スズメは、どんな山深い集落でも、人が住まいをしているところには必ずといってよいほど棲みついています。そのことは現代でも変わりないと思います。人家の近くでは田畑があり、餌になる昆虫の幼虫や植物の種子があるからです。繁殖期には、柔らかい昆虫の幼虫などが、ひな鳥の餌として大量に必要なのです。秋、草が枯れ、種子が

見つけやすくなると、親子で群がって食べるようになり、その頃から群れ行動をするようになります。木枯らしが吹き、木の葉が落ちる季節になると、天敵に狙われることも多くなりますが、群れでいると周囲を見る目が多いため、早く天敵を発見できます。天敵を見つけると、ひと声で一斉に散らばり、その犠牲を最小限にとどめることができるのです。



スズメ

スズメは一つの巣で5~6羽のヒナを育てます。民家の軒や屋根瓦のわずかなすき間を利用して繁殖します。そんなわずかなすき間もない現代の家屋は、スズメたちの冬期のねぐらまで奪ってしまっています。

又、すずめの学校とは、日が落ちて暗くなるまでのわずかな時間、ねぐらに選んだ樹木の近くで鳴きかわす騒々しい鳴き声を、小学生の元気で騒がしい状況に見たてた表現のようです。(吉見)

昆虫の話

春を待つ綿あめ

冬の間はほとんど昆虫の姿を見かけません。多くの昆虫にとって冬は寒すぎるのです。けれども春にはまた様々な昆虫たちの姿を見ることができます。昆虫たちは土や朽木の中でじっとしていたり、卵や幼虫、蛹といった別の形になって寒い冬をやり過ごしているのです。

オオカマキリは卵で冬越しをする昆虫の一つです。寒さでエサもなくなり、ほとんどのオオカマキリは11月の終わりには卵を残して息絶えてしまいます。冬に見られる卵は、もこもこした綿あめのような形をしています。



オオカマキリの卵鞘

この綿あめは卵鞘(らんしょう)とよばれる卵のケースです。この中に細長い本当の卵が100個以上つまっています。卵鞘は空気を含み、衝撃に強く断熱効果があり、防水性もある、オオカマキリがわが子を守るゆりかごなのです。

この卵について面白い俗説があります。オオカマキリは雪の予言ができるというものです。オオカマキリは枯れ草や木の枝に卵を産み付けます。その時、雪に埋まらない場所に卵を産むため、卵の場所が高いと雪が多く、低いと雪が少ないというのです。けれども、この俗説は迷信にすぎません。卵鞘は雪に埋まっても全く問題ないのです。

一説には、雪が多い山間部は木が多いため木の枝の高い所に卵を産み、雪の積らない平地の草原では、木が少ないため低い草に卵を産んでいることがこの俗説の出所だといわれています。

冬の野山で見つけるとうれしくなってしまいますが、オオカマキリの卵を持って帰ってはいけません。部屋の中が暖かいと、春と勘違いして出てきた多数の幼虫たちに大慌てすることになります。せっかく孵ったオオカマキリの幼虫たちも、まだまだ寒い屋外にはエサとなる昆虫がおらず、春を迎えることができないでしょう。(広島市森林公園こんちゅう館 藤井)

研修会のご案内

- | | |
|--|--|
| <p>○ 3月15日(水)『コケの観察会』
小さな世界から大きな世界へ
※自由参加、無料</p> <p>○ 3月15日(水)『サクラあれこれ』
臨時研修会
サクラについて学ぼう
※自由参加、無料、(開始時間注意)</p> <p>○ 3月17日(金)『早春の写真教室』
臨時研修会
ツバキを撮ろう
※定員に達したため締切りました</p> <p>○ 3月19日(日)『イワタバコ
シライトソウの石付け』
床の間や玄関に飾れる石付け山野草に挑戦
※要予約(先着30名)、材料費1,000円</p> <p>○ 3月26日(日)『早春のバードウォッチング』
春の活動基準になるもの
※自由参加、無料、双眼鏡持参</p> <p>○ 3月29日(水)『3月の自然探勝』
春を見つけよう～早春の花と～
※自由参加、無料、</p> <p>○ 3月29日(水)『みんなで学ぼう
臨時研修会 検索表によるやさしい植物の同定法』
広島県内の38種類のスマレを題材にして
※自由参加、無料、(開始時間注意)</p> | <p>10:00～12:00 学習室 集合
講師：広島大学名誉教授
関 太郎</p> <p>13:00～15:00 学習室 集合
講師：樹木医
正本 大</p> <p>10:00～12:00 学習室 集合
講師：二科会会員
宗岡 泰昭</p> <p>10:00～12:00 学習室 集合
講師：森林インストラクター
長井 稔</p> <p>10:00～12:00 管理棟前 集合
講師：日本鳥類保護連盟会員
吉見 良一</p> <p>10:00～12:00 学習室 集合
講師：森林インストラクター
駄賀 恒男</p> <p>13:00～14:30 学習室 集合
コーディネーター
駄賀 恒男</p> |
|--|--|

◎ 展示会

場所: 学習展示館(レストハウス工事のため)

(ガラスケース展示)

- ・バード&フィッシュカービング作品展
～3月12日(日)
- ・緑化ポスター原画コンクール入賞作品展
～3月15日(水)

♪☆お知らせ・ご案内☆♪

- ・春のおでかけキャンペーン
3月18日(土)～5月28日(日)
- ・さくら祭り 3月25日(土)～4月23日(日)

～森林公園イベント情報～

3月4日(土)・5日(日)

- ・親子森林体験“森のピザづくり” 対象:小学生と保護者
(両日とも抽選で15組)
- ・しいたけの里親 対象:どなたでも
園内で育てて2年目から収穫
(両日とも抽選で25組) 1組当たり「ほだ木」1本千円
往復ハガキで応募

ほかにも盛沢山のイベントがあります。
詳細は、森林公園 H.P 等でご確認ください。



バード&フィッシュカービング作品展



広島県緑化ポスター原画コンクール入賞作品展より